



2020年3月期 第2四半期決算説明会

2019年11月26日

 **ダイダン株式会社**



2020年3月期 第2四半期決算 連結業績サマリー

連結業績サマリー

連結経営指標等（経営成績）の概要

（単位：百万円）

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
受注工事高	79,650	87,902	8,251	10.4%	首都圏で大型案件を獲得
完成工事高	69,677	78,917	9,240	13.3%	前期比で受注工事高が増加、前期末繰越工事高も潤沢であり、それらが順調に進捗
完成工事総利益	9,140	9,870	730	8.0%	完成工事高の増加
完成工事総利益率 (%)	13.1%	12.5%	▲0.6p		
営業利益	3,649	4,091	442	12.1%	人件費の増加等により一般管理費が増加するも、完成工事総利益の増加で吸収
営業利益率 (%)	5.2%	5.2%	▲0.1p		
経常利益	3,939	4,230	291	7.4%	前期の為替差益が、当期は為替差損に転じるも、営業利益の増加で吸収
経常利益率 (%)	5.7%	5.4%	▲0.3p		
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,645	2,897	252	9.5%	
四半期純利益率 (%)	3.8%	3.7%	▲0.1p		

事業環境

- ・ 好調な企業業績を背景に、既存設備の老朽化更新や、人手不足に対応した省力化・合理化等で設備投資は底堅く推移しました。特に、首都圏の大型工事の受注及びその順調な進捗により、受注工事高、完成工事高とも前期比で大幅に増加しました。

業績の動向

- ・ 前期比で増収増益となりました。

連結業績サマリー

連結部門別工事高の推移

(単位：百万円)

		2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因等・特記事項
受注 工事高	電気工事	10,200	11,140	939	9.2%	
	空調工事	49,307	55,288	5,981	12.1%	
	水道衛生工事	20,143	21,473	1,330	6.6%	
	合計	79,650	87,902	8,251	10.4%	増加要因は前ページのとおり
完成 工事高	電気工事	11,275	12,029	754	6.7%	
	空調工事	41,139	47,963	6,824	16.6%	
	水道衛生工事	17,262	18,924	1,661	9.6%	
	合計	69,677	78,917	9,240	13.3%	増加要因は前ページのとおり
繰越 工事高	電気工事	13,096	14,579	1,482	11.3%	
	空調工事	85,319	84,827	▲492	▲0.6%	
	水道衛生工事	31,925	32,914	989	3.1%	
	合計	130,341	132,321	1,979	1.5%	受注工事高が堅調に推移

- ・首都圏で大型工事を受注したことにより、受注工事高が増加し、完成工事高についても堅調に推移しました。結果、繰越工事高も増加となりました。

連結業績サマリー

連結経営指標等（財政状態）の概要

（単位：百万円）

	2019年3月期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
純資産	66,390	67,331	941	1.4%	四半期純利益2,897百万円が配当額1,070百万円を上回り、利益剰余金が1,827百万円増加
総資産	120,728	122,014	1,285	1.1%	
1株当たり純資産（BPS）	2,970.59円	3,056.99円	86.4円	2.9%	
株価純資産倍率（PBR）	0.87倍	0.71倍	—	—	（参考）2019年3月 株価終値：2,570円 2019年9月 株価終値：2,167円
自己資本比率	54.8%	55.0%	0.2p	—	

連結経営指標等（キャッシュ・フロー）の概要

（単位：百万円）

	2019年3月期 第2四半期	2020年3月期 第2四半期	増減	増減率	主な増減要因・特記事項
営業活動によるCF	2,569	12,840	10,271	399.8%	大型工事の代金回収11,068百万円
投資活動によるCF	▲38	▲286	▲247	—	四国支店（エネフィス四国）の建設費用▲574百万円、有価証券の売却及び償還323百万円等
財務活動によるCF	▲660	▲1,826	▲1,166	—	配当金の支払、自己株式の取得
現金及び現金同等物の期首残高	27,858	12,776	▲15,081	▲54.1%	※当期の期首残高が減少の要因は、2018年12月に支払手形期日を120日から60日へ短縮したため
現金及び現金同等物の増減額	1,866	10,709	8,842	473.7%	（労働者不足が顕著となっている建設市場において、協力会社との更なる関係の強化・構築を図ることを目的としている）
現金及び現金同等物の四半期末残高	29,724	23,485	▲6,239	▲21.0%	



2020年3月期 第2四半期決算の総括

リニューアル工事及び直接受注の状況

リニューアル工事及び直接受注の状況

(単位：百万円)

	2019年3月期			2020年3月期		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	前年同期比	
リニューアル工事	40,828	41,281	82,109	45,321	4,493	大規模・中規模の改修工事、 小規模の改修工事がともに増加
リニューアル比率 (%)	51.3%	52.3%	51.8%	51.6%		
大規模・中規模 の改修工事	21,154	21,353	44,447	23,094	1,940	
小規模 の改修工事	19,674	17,988	37,662	22,227	2,553	インバウンド効果や、消費増税による 個人消費の駆け込み需要を受けた百 貨店や小売店舗等の改修工事等
その他	38,822	37,602	76,424	42,580	3,758	
受注工事高合計	79,650	78,883	158,533	87,902	8,251	
直接受注	34,165	39,084	73,249	43,447	9,282	
直接比率 (%)	42.9%	49.5%	46.2%	49.4%		

- ・リニューアル工事は、前期比44億円増の453億円と大幅な増加となりました。
内容としまして、大規模・中規模の改修工事は引き続き堅調に推移するとともに、小規模の改修工事は、インバウンド効果や、消費増税による個人消費の駆け込み需要を受けた百貨店や小売店舗等の改装工事等により、大幅な増加となりました。
- ・大型の首都圏再開発案件を直接受注したこと等により、直接受注比率は49.4%となりました。

産業施設工事の状況

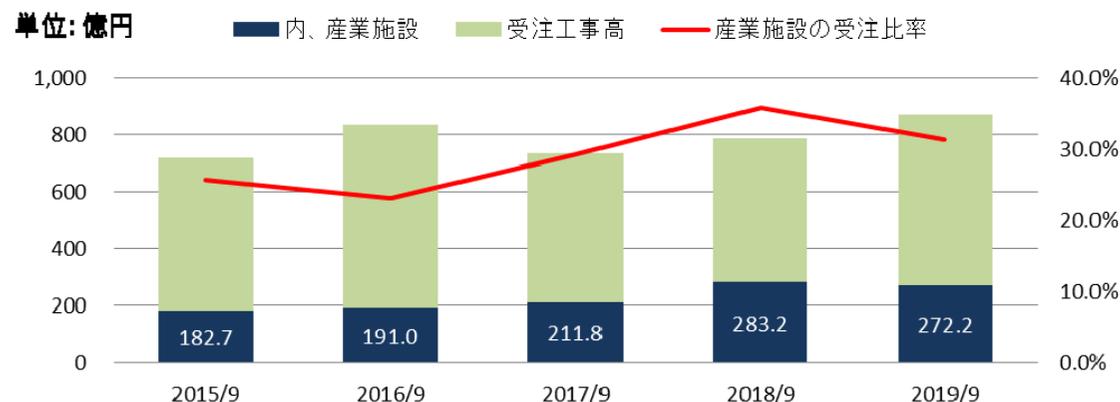
産業施設工事の状況

(単位：百万円)

	2019年3月期			2020年3月期		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	前年同期比	
産業施設合計 (受注比率%)	28,324 35.6%	24,882 31.5%	53,206 33.6%	27,225 31.0%	▲1,099	データセンター、研究所で減少
受注工事高合計	79,650	78,883	158,533	87,902	8,251	

※工場、研究所、データセンター、物流施設を「産業施設」として区分している。

産業施設の第2四半期受注工事高の推移



産業施設工事はデータセンター、研究所で減少し、産業施設工事全体の受注工事高は、前期比10億円減の272億円となり、受注比率は31%となりました。

なお、上期に受注を予定していた大型案件が下期にずれ込んだためであり、引き続き受注環境は良好です。

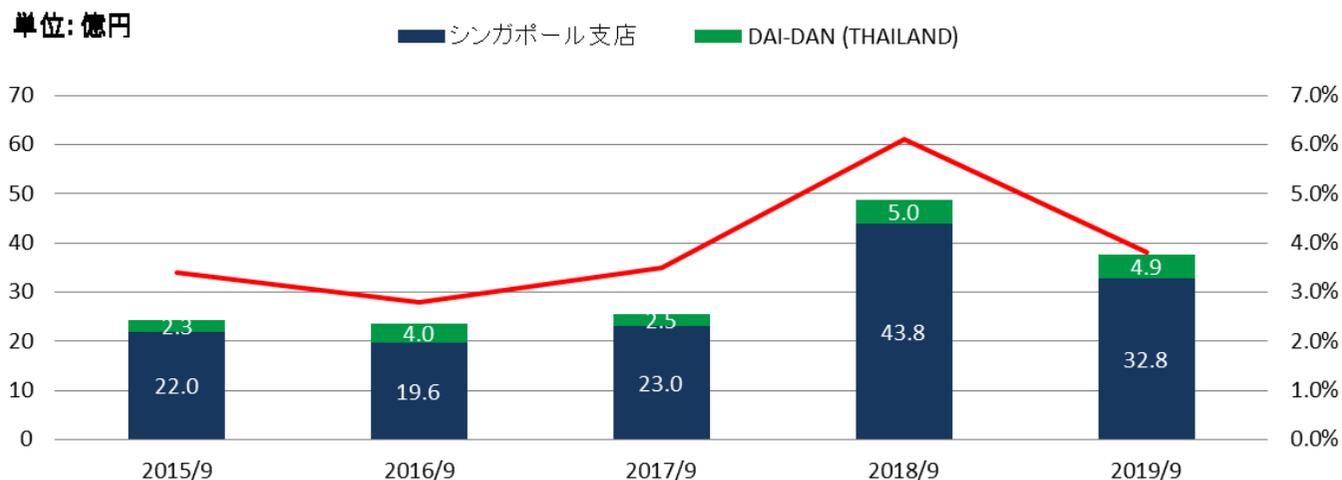
海外事業の状況

海外事業の状況

- ・ 海外事業は、シンガポール支店とタイの DAI-DAN (THAILAND) を中心に活動しています。
- ・ シンガポールにおいて、当期は病院の大型工事を受注したものの、他に大型案件の獲得がなかったことから、海外工事の受注工事高は減少となりました。なお、下期において大型案件を見込んでいるため、通期では前期並みの受注を予想しております。

	2019年3月期			2020年3月期		主な増減要因・特記事項
	上半期	下半期	通期	上半期	前年同期比	
海外受注工事合計【連結】	4,890	5,318	10,208	3,765	▲1,124	大型案件が1件にとどまった
(受注比率%)	6.1%	6.7%	6.4%	4.3%		

海外の第2四半期受注工事高の推移【連結】





2020年3月期 通期業績予想

通期業績予想

連結通期業績予想

(単位：百万円)

	2019年3月期			2020年3月期			前期対比 通期
	上半期	下半期	通期	上半期	下半期(予想)	通期(予想)	
受注工事高	79,650	78,883	158,533	87,902	73,098	161,000	2,467
完成工事高	69,677	85,888	155,565	78,917	82,083	161,000	5,435
完成工事総利益	9,140	9,971	19,111	9,870	10,330	20,200	1,089
完成工事総利益率(%)	13.1%	11.6%	12.3%	12.5%	12.6%	12.5%	0.2p
営業利益	3,649	4,012	7,661	4,091	3,909	8,000	339
営業利益率(%)	5.2%	4.7%	4.9%	5.2%	4.8%	5.0%	0.1p
経常利益	3,939	4,118	8,057	4,230	3,970	8,200	143
経常利益率(%)	5.7%	4.8%	5.2%	5.4%	4.8%	5.1%	▲0.1p
親会社株主に帰属する当期純利益	2,645	2,819	5,464	2,897	2,803	5,700	236
当期純利益率(%)	3.8%	3.3%	3.5%	3.7%	3.4%	3.5%	0.0p

業績の動向

上期は増収増益となったものの、下期の業績は慎重に見据えております。

その理由としては、

- ①依然として資機材及び労務費の上昇懸念があること
 - ②海外情勢の変化や消費増税による景気悪化への懸念から設備投資への先行きに不透明感があること
 - ③将来の安定した業績確保のため下期においては来期以降の収益に寄与する大型案件への受注に注力すること
 - ④大型工事は若干ではあるが想定外の事象が生じる可能性も考えられること
- などによります。

株主還元

株主還元に対する方針

- ・利益配当による株主への利益還元を経営上の最重要施策と考え、健全な財務体質の構築に努めるとともに、「安定的かつ継続的な配当」を基本としています。
- ・公表しております通期業績の各利益につきまして、達成もしくは上回った期におきましては増配を実施してきました。
- ・今後も業績の推移を見ながら、適宜配当金額について検討してまいります。

配当の状況

	年間配当金			配当金総額 (合計) 百万円	配当性向 (連結) %	純資産配当率 (連結) %
	第2四半期末 円 銭	期末 円 銭	合計 円 銭			
2018年3月期	23.00	33.00	56.00	1,248	24.4%	2.0%
2019年3月期	28.00	48.00	76.00	1,694	31.0%	2.6%
2020年3月期※ (期末は予想)	40.00	50.00	90.00	—	34.9%	—

※2019年11月7日に公表の通り、当期上期の業績を鑑み、通期業績は当初計画を達成との見込みから、期末配当金に1株当たり10円を増配し、合計50円といたしました。

自己株式取得について

- ・2019年5月10日に325,000株の自己株式の取得を行いました。
- ・今後も、資本効率の向上を考慮し、必要に応じて対応してまいります。



2020年3月期 中期経営計画の進捗

中期経営計画（2019年3月期～2021年3月期）

■ 収益目標

（単位：百万円）

	2021年3月期(第92期)
	連結
受注工事高	151,000
完成工事高	151,000
営業利益	8,000

経営指標 営業利益率：5.3%

■ 収益目標に関する進捗

（単位：百万円）

	2019年3月期(第90期) (実績)	2020年3月期(第91期) (予想)
	連結	連結
受注工事高	158,533	161,000
完成工事高	155,565	161,000
営業利益	7,661	8,000

- 受注工事高、完成工事高は2ヶ年前倒し（2019年3月期）で達成しました。
- 営業利益は、2020年3月期の目標を80億円とし、1ヶ年前倒しでの達成の予定です。

市場変化に対応できる組織の構築

● 3 事業部制を導入

全国を東日本事業部・中日本事業部・西日本事業部の3つの大きな括りにして、市場への対応力向上を図る。

- ・ 地域特性に応じた受注戦略の推進
- ・ 将来の市場性を見据えた経営資源の配分

ZEBへの取り組み

ZEBの検証と開発技術

2020~

ダイダンの「スマート化」への取り組み

2013

新研究棟建設

省・創・蓄エネルギー技術の実証

- 最先端の省・創・蓄エネルギー技術の導入
- エネルギー資源の有効活用と自立安定性を実現する技術の実証

2015

研究棟スマート改修

スマート改修の検証評価

- 建物のニーズに合わせた多彩な技術からの提案 [パレットリニューアル]を実施
- 建物間断熱通気技術の導入と検証
- 省エネルギーと快適性を両立する次世代オフィス「ゼロ・キュービック」を構築

2016

スマートエネルギーラボ建設

次世代ビルの実現

- 人と地球が共存できるオフィスの構築
- 実際に使用される建物における検証
- 建物性能の見える化 (外部視認による認定・認証)

BELS CASBEE

2019

エネフィス四国

設計段階で「ZEB」を認証

BELS CASBEE

北海道支店 建設計画

ZEB LEADING OWNER

ZEB29L-00012-P

蓄積された技術

改修による「ゼロ・キュービック」を構築

モデルルームのZEB化

実際のオフィスでのZEB検証 (ZEB Ready)

さらなるZEB化 (完全「ZEB」)

寒冷地ZEB化 (全国をカバー)

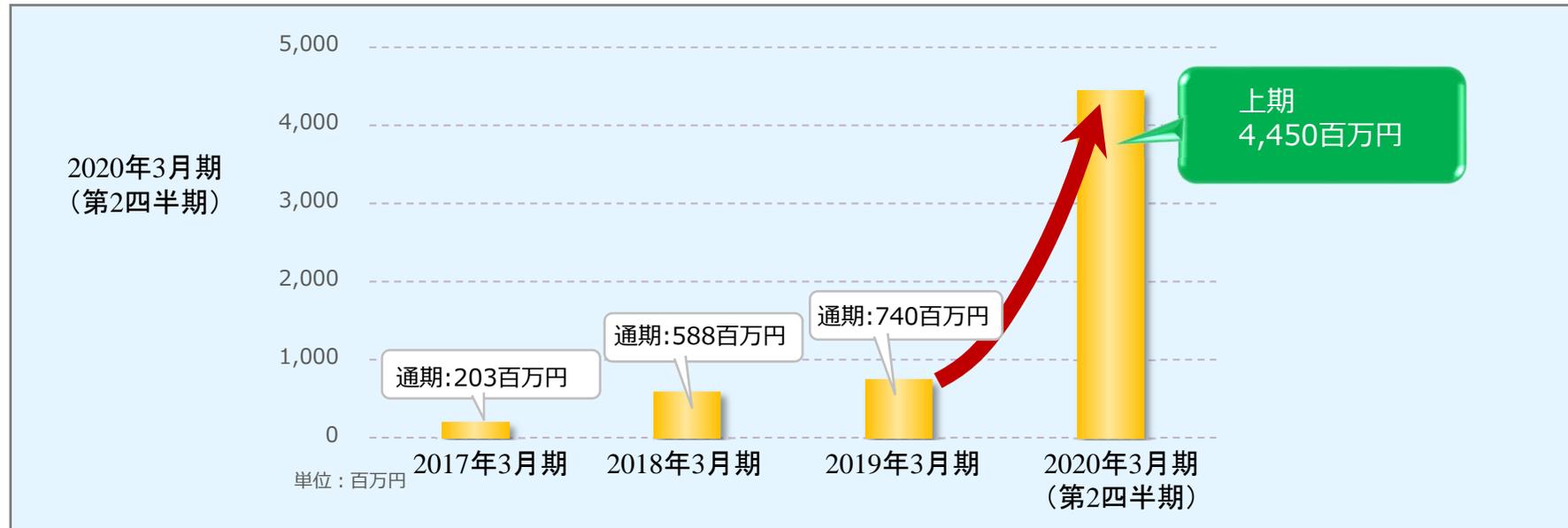
ZEBの開発技術

- ・シーリングフリー
- ・リモビス
- ・クリマチェア

省・創・蓄エネルギー技術の実証

ZEBへの取り組み

2020年3月期第2四半期までの受注実績と今後の取組

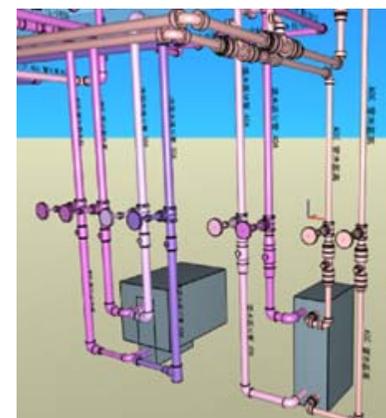


ZEB受注拡大に向けた今後の取組

- ・ 技術提案、設計支援により**大規模案件**を獲得
- ・ ZEBの知見や技術を総合評価の技術提案に活用し**官庁案件**を獲得
- ・ **小規模案件の建築工事を含めた一括受注**
- ・ 当社施工物件のZEB化**改修案件**の掘り起こし



現況図作成に，3Dスキャナ・3D-CADを活用

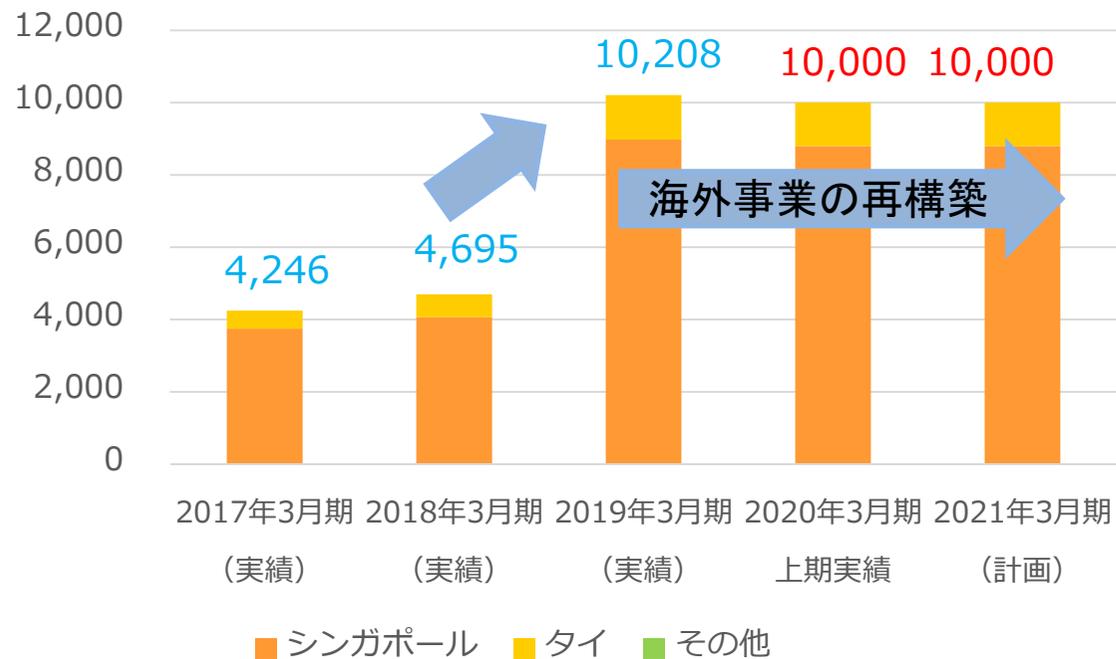


海外事業の再構築

5月発表の海外事業への取り組み

- 海外室を独立させ体制を強化
- 海外（シンガポール、タイ）と国内が密に連携
- 受注拡大と採算性の向上

海外事業受注高の実績と計画（百万円）

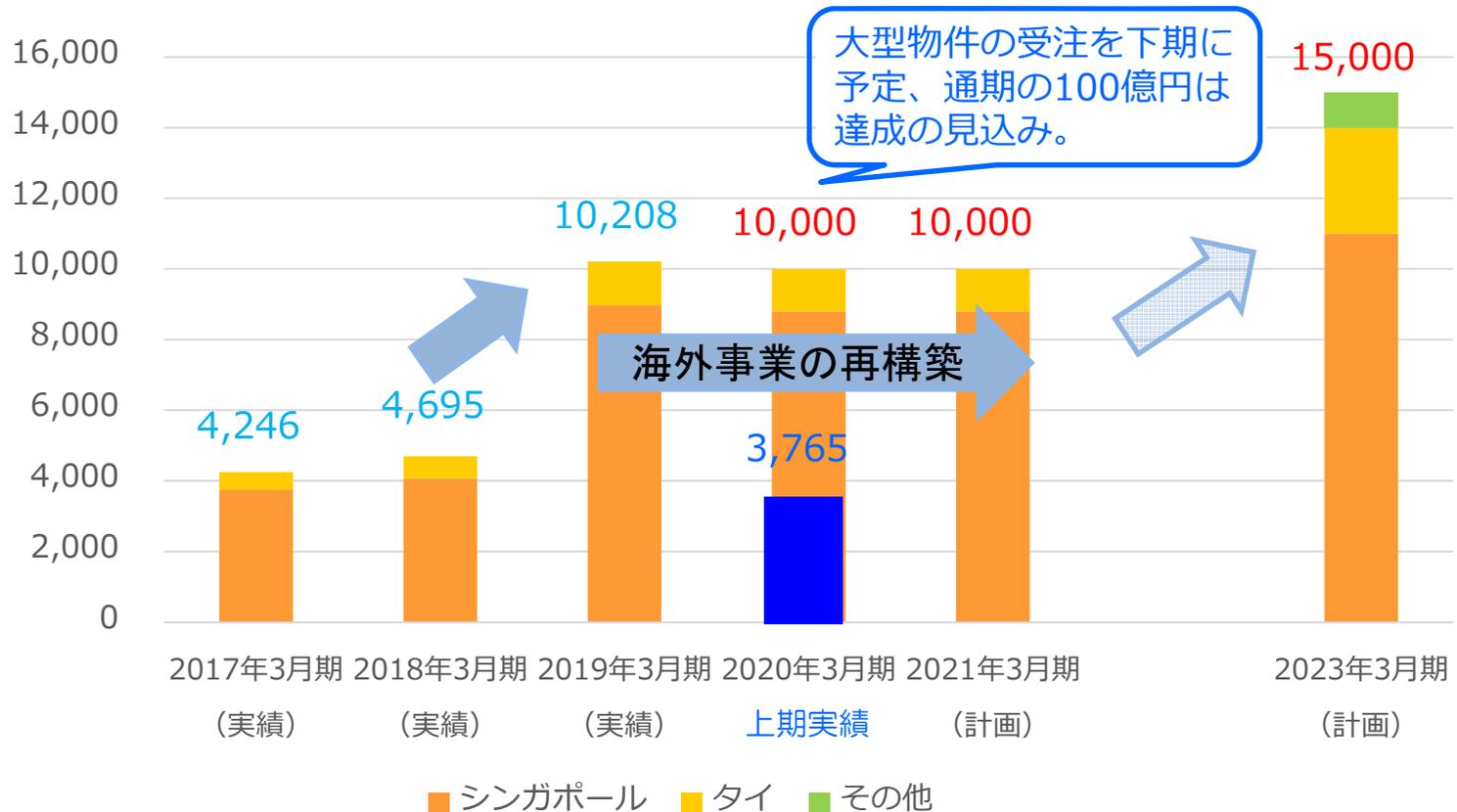


海外事業の再構築

上半期の海外事業の実績

- 上半期受注実績 3,765百万円
- 海外と国内の連携 ⇒ Web会議を使い情報共有、現地社員の技術研修
- シンガポール、タイ以外の拠点拡大のための調査

海外事業受注高の実績と計画（百万円）



海外事業拡大への取り組み

- ▶ タイランドでは、日本人スタッフを増員
客先となる日系企業への対応力を強化
- ▶ シンガポールとタイランドの2ヶ国に加え、
他国へ進出
- ▶ エンジニアリング本部と連携し、技術提案を
積極的に行い競争力を強化
- ▶ ZEBを切り口にした展開を推進

免責事項

当社が開示する今後の計画、戦略などの将来の業績に関する見通しは、発表時点で合理的であると判断する前提に基づき作成しています。

従って、様々な要因により、実際の業績が予想と異なる結果になる場合があります。

IRに関する問合せ先

経営企画室 広報・IR担当:電話 03-3261-8231(代表)

〒102-8175 東京都千代田区富士見2-15-10